水都大阪
AQUA METROPOLIS OSAKA

水都大阪ビジョン

2020年11月
水都大阪コンソーシアム

はじめに

- 2001年に国の都市再生プロジェクトに採択されて以降、公民連携による水都大阪の「**再生**」をめざした取組みにより、水辺の景観は見違えるように魅力的になった。 ⇒**【第1フェーズ】**

- その成果を引き継ぎ、2017年度から2020年度までは、「**再生から成長へ**」をコンセプトに、水と光の魅力にさらなる「広がり」と「厚み」の創出をめざして取組みを進め、目標とした舟運利用者数100万人は早期に達成することができた。また、近年、来阪インバウンドの増加は著しく、2019年には1,231万人に達する中、多くの方に水辺を楽しんでいただくことができるようになった。 ⇒**【第2フェーズ】**

- しかし、直近では、**新型コロナウイルスの感染症拡大**や国際情勢の影響により、水都大阪の舟運・観光事業は、過去に経験したことが無いほど大きな被害・損害を受けている。そこで、まずは影響前の水都大阪への早期回復に向けて取組みを進めている。

- そのような中、2021年開催予定の**東京2020オリンピック・パラリンピック**や2022年開催予定の**ワールドマスターズゲームズ2021関西**などのビッグイベントが控え、さらには、2025年の「**大阪・関西万博**」の開催が決定している。加えて、IRの誘致など、夢洲を中心とするベイエリアの国際観光拠点としての開発も進みつつある。

- これまでは「ロードマップ」に基づき取組みを進めてきたが、今後も行政、経済界に学識者を交えた**オール大阪**での取組みをさらに進めていくため、水都大阪コンソーシアムが水都大阪初の「ビジョン」を取りまとめた。本ビジョンは、これまでの水都大阪の再生（コロナ禍収束後含む）から「**持続的な成長（面的展開）**」をめざして、歴史と文化に培われた水都大阪の魅力をより一層磨き上げ、全世界へ発信し、安全・安心で環境と共生する持続可能な水都大阪を確立すべく、2025年及びさらにその先をも見据え、公民一体となった取組みの方向性を取りまとめるものである。これに呼応して、大阪全体の活性化を期待する。 ⇒**【第3フェーズ】**

※ ビジョンはこれまでの歴史や中長期展望を共有するものとする。ビジョンを実現するためのアクションプラン（別添）は関係者で協議しながら、ブラッシュアップしていくものとする。

目次

Ⅰ 水都大阪のこれまでの取組み
1．水都大阪の歴史
2．水都大阪のこれまでの取組み
3．船着場の整備状況
4．準則特区指定状況

Ⅱ 水都大阪を取り巻く状況
1．取り巻く状況
2．舟運の現状
3．水都大阪の課題

Ⅲ 水都大阪の将来像
1．ビジョン
2．基本コンセプト
3．全体イメージ図

Ⅰ　水都大阪のこれまでの取組み

1．水都大阪の歴史

- 古くは飛鳥時代に難波津と呼ばれた港が、大陸諸国との交易拠点として栄えた。遣唐使もここから大陸をめざし出港した。
- 近世には、豊臣秀吉が大阪城築城に併せて東横堀川など数多くの堀川を開削。船場を中心に「水の都」と呼ばれる原形ができ、「天下の台所」を支える重要な役割を担った。
- また、近世に広島産のカキを積んで大阪で供したのが始まりとされる牡蠣船が、大正時代には約30艘も営業していたが、昭和40年代になってその姿を消していった。
- 明治36年（1903年）に開催された第五回内国勧業博覧会では、大阪巡航合資会社が設立され、市中の堀川を巡行船が走り観覧者の足となっていた。
- 大正後期から昭和初頭にかけて大阪は「大大阪」と呼ばれ、中之島、北浜、船場一帯は、近代大阪の重厚な都市景観を形成した。
- 戦後は、モータリゼーションの発達で、川や堀が埋め立てられ、多くの橋も撤去された。また、地下水汲み上げにより、低地だった地盤がさらに低下したことで、度重なる水害が発生。対策として防潮堤が設置されたが、コンクリート護岸が水辺と陸を分断したため、人々は水辺への関心を失っていった。
- さらに、高度経済成長とともに、急速に拡大した経済活動と人口増加により、生活排水や工場排水が河川に流れ込み、水質が悪化したことで、ますます人々の生活から水辺が遠のいていった。
- しかしながら近年は、河川の水質も大幅に改善されてきており、併せて規制緩和による、水辺のにぎわいと一体的なまちづくりも進められてきていることから、再び人々が水辺に近づき、船が行き交う風景が戻ってきている。

（参考）浪速天満祭 貞秀画、1859年 府立中之島図書館

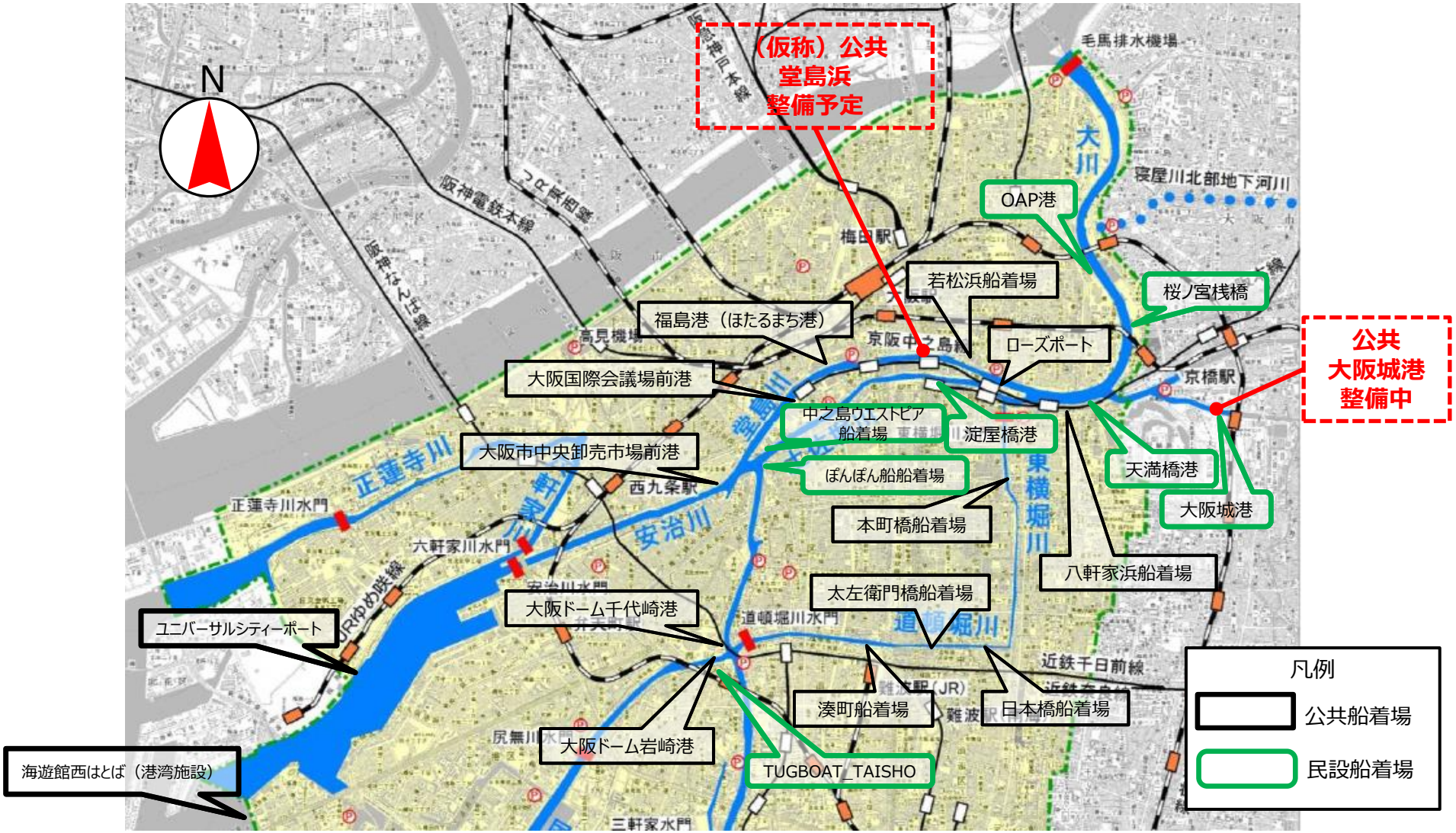
2．水都大阪のこれまでの取組み

- 2001年に「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択されて以降、水の回廊沿いの遊歩道や船着場の整備、橋梁や護岸等のライトアップなどのハード整備を行うとともに、規制緩和による河川空間でのにぎわい拠点の創出や、水都大阪フェス等のソフト事業を展開し、水都に相応しい水辺を活用した魅力づくりを推進

年度		2001~2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ハード	船着場	■大阪ドーム千代崎港 ■大阪ドーム岩崎港				■八軒家浜船着場 ■福島港（ほたるまち港）		■大阪国際会議場前港（再整備） ■大阪市中央卸売市場前港 ■ローズポート			■若松浜船着場		■本町橋船着場（本整備）				■大阪城港（実施設計）
	水辺の拠点空間	■とんぼりリバーウォーク（湊町～太左衛門橋完成）				■ほたるまち	■中之島公園（再整備） ■川の駅はちけんや		■中之島バンクス	■とんぼりリバーウォーク（全体完成） ■中之島GATE	■若松浜(中之島LOVE CENTRAL) ■大阪ふれあいの水辺(桜ノ宮ビーチ)					■キタハマミズム	
	ライトアップ	■水晶橋（1990）				■淀屋橋・大江橋・錦橋	■難波橋・天神橋	■中之島ガーデンブリッジ	■玉江橋・堂島大橋・天満橋			■鉾流橋			■梅檀木橋		
							護岸ライトアップ　大川・堂島川										
	みどりあふれる遊歩道										■天満天神の森 ■若松浜遊歩道			■木津川遊歩空間（トコトコダンダン）			
ソフト	水都フェス等						■水都大阪2009	■水都賑わい創出プロジェクト2010	大阪水辺バル			■水都大阪2015プレ事業 ■水都大阪2015シンボルイヤー			水辺のまちあそび		
								水都大阪フェス									
							平成OSAKA天の川伝説										
	舟運・にぎわい創出	■落語家と行くなにわ探検クルーズ就航(2003～) ■とんぼりリバークルーズ就航 ■アクアmini就航 ■河川敷地占用許可準則緩和 ■とんぼりリバーウォークのイベント等社会実験開始 ■大阪周遊パス（2001～）					■大川さくらクルーズ就航（2009～） ■川の駅はちけんやオープン ■北浜テラス川床設置開始	■中之島公園“R”、“GARB”オープン	■河川敷地占用許可準則緩和（民間占用可能） ■中之島バンクスオープン	■中之島GATEサウスピア社会実験（～2019） ■とんぼりリバーウォーク民間運営開始	■大阪城御座船就航 ■中之島LOVE CENTRALオープン			■中之島リバークルーズ就航 ■中之島GATEノースピア水上レストランオープン			■TUGBOAT_TAISHOオープン
								中之島にぎわいの森づくり									
体制等		■「水都大阪の再生」が国の都市再生プロジェクトに採択(2001) ■「水の都大阪再生協議会」「花と緑・光と水懇話会」設立(2002)				■水都大阪2009実行委員会		■水都大阪推進委員会			■水と光のまちづくり推進会議 水都大阪パートナーズ 水都大阪オーソリティー				■水と光のまちづくり推進会議 水都大阪コンソーシアム		

3．船着場の整備状況

- 現在、22港が利用可能で、そのうち14港は公共船着場



4．準則特区指定状況

- 2016年5月、河川敷地占用許可準則が改正され、営業活動を行う事業者等が河川敷地を占用する場合の占用許可期間の上限が「３年」から、公的主体の場合と同じ「10年」に延長された。
  ※占用期間は占用の様態等を考慮して適切な期間を設定することとされている。

指定年月日	指定区域	主な施設等	所管
2011.7.15	八軒家浜：　大川左岸の天満橋～天神橋下流120m	川の駅はちけんや（飲食店含む）	府
2012.3.26	北浜：　土佐堀川左岸の難波橋上流320m～淀屋橋	北浜テラス（15件）	府
2012.3.26	中之島東部：　天神橋上流（剣先）～淀屋橋･鉾流橋	R、ＧＡＲＢ	府
2012.3.26	中之島バンクス：　堂島川左岸の玉江橋～堂島大橋	カフェ、バー、物販、水上レストラン等	府
2012.4.1	道頓堀川：　湊町（浮庭橋）～日本橋	とんぼりリバーウォーク	市
2012.7.19	若松浜：　堂島川右岸の鉾流橋～水晶橋	中之島LOVE CENTRAL	府
2015.2.23	尻無川河川広場：　尻無川左岸の岩崎橋～岩松橋	TUGBOAT_TAISHO	府
2016.2.19	安治川右岸（船津橋下流）：安治川右岸船津橋～下流330m	おおさかふくしま･中之島ゲート海の駅	府

※その他、箕面川（箕面市）、狭山池ダム（大阪狭山市）、内川（堺市）がある。

4．準則特区指定状況（公共空間の整備）

- 八軒家浜、道頓堀、中之島公園、船着場などの基盤整備の状況

before

《指定区域名：八軒家浜》
船着場と川の駅はちけんや

after

before

《指定区域名：道頓堀川》
とんぼりリバーウォーク

after

4．準則特区指定状況（公共空間の整備）

- 八軒家浜、道頓堀、中之島公園、船着場などの基盤整備の状況

before

《指定区域名：
中之島東部》
中之島公園

after

4．準則特区指定状況（民間事業の展開）

- 新たな水辺景観を活かした民間事業の展開状況

before

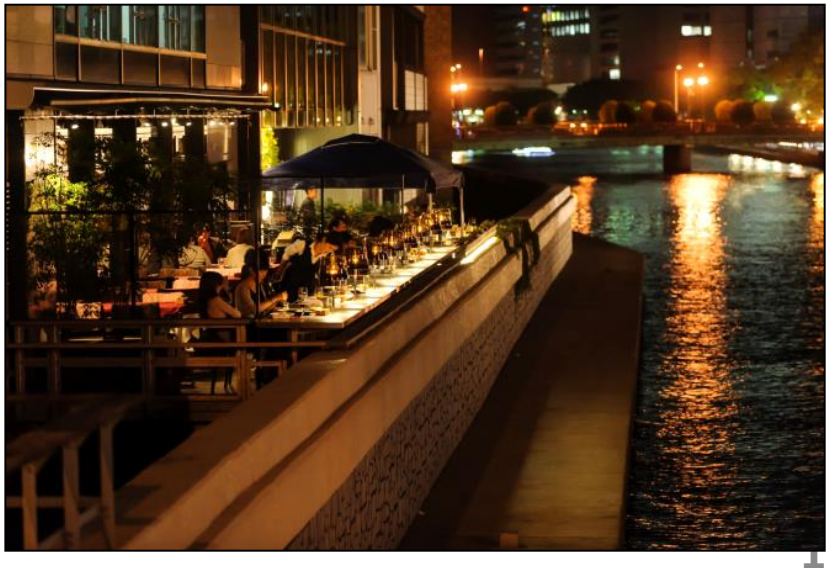
《指定区域名：道頓堀川》
キャナルテラス堀江

after

before

《指定区域名：北浜》
北浜テラス

after



4．準則特区指定状況（民間事業の展開）

● 新たな水辺景観を活かした民間事業の展開状況

before

《指定区域名：中之島バンクス》

after

before

《指定区域名：若松浜》

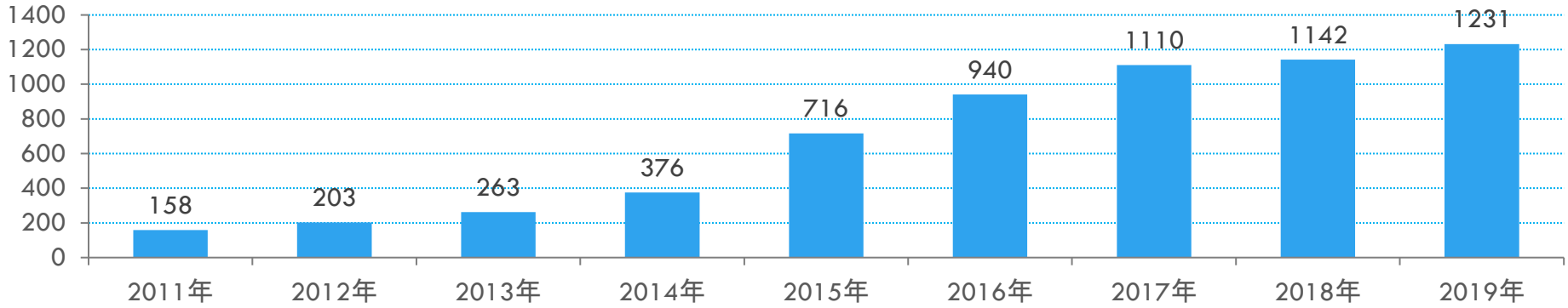
after

Ⅱ 水都大阪を取り巻く状況

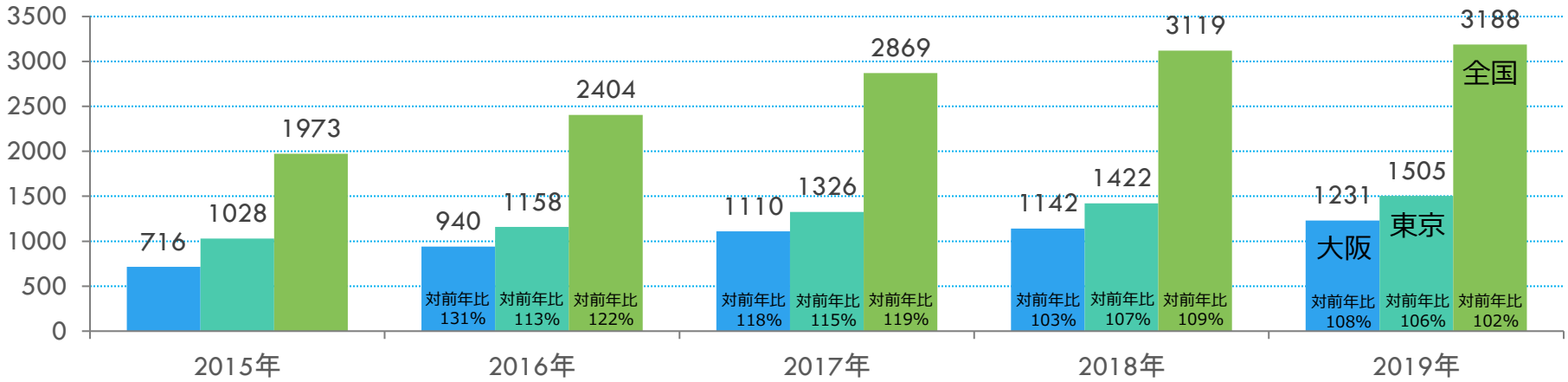
1．取り巻く状況（近年のインバウンドの推移）

- 2019年に大阪を訪れた外国人は、前年比8%増の1,231万人となり、一昨年、昨年に引き続き1,000万人を突破
- 同時期に日本を訪れた外国人が3,188万人であることから、訪日客の3人に1人は大阪を訪れている状況
- また、伸び率では前年比約6%増の東京を上回った
- なお、新型コロナウイルスの感染症拡大や国際情勢の影響により、2020年1～3月における前年同期比は、全国49%、東京54%、大阪47%となり、ほぼ半減した

■来阪外客数の推移（単位：万人）



■来阪外客数の推移（全国、東京との比較）（単位：万人）



出典：大阪観光局（2020年6月1日,7月31日）　※ JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに推計

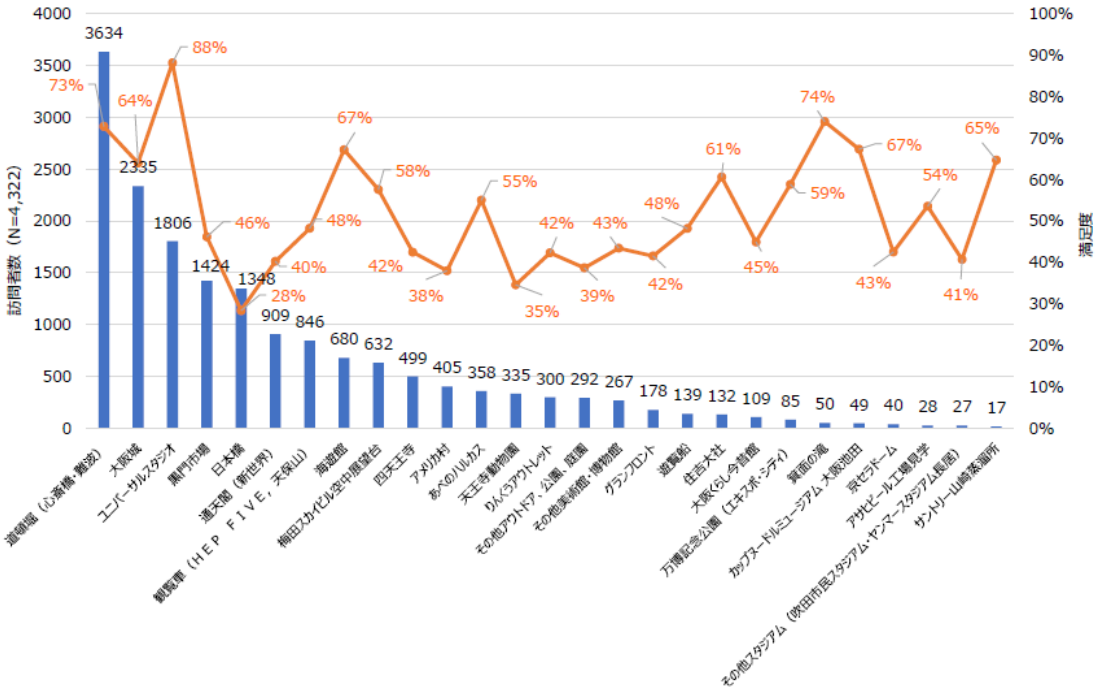
1． 取り巻く状況（来阪インバウンドの訪れる場所）

- 来阪インバウンドの訪問先を調べた結果、訪れた場所として、１位に「道頓堀（心斎橋・難波）」、続いて、２位に「大阪城」、３位に「ユニバーサルスタジオ」となっており、水辺に近い観光地が上位となっている

大阪を訪問する外国人旅客の訪問先、消費動向等を調べるため、関西国際空港で出発前の外国人旅行者に対して係員が対面調査

大阪の観光地

訪れた場所（棒グラフ・複数回答）及び訪れた結果お勧めしたいと思った率（折れ線グラフ）



出典：大阪観光局　2019年　関西国際空港　外国人動向調査結果

順位	訪問先	訪問した率（%）	お勧め率（%）
1	道頓堀（心斎橋・難波）※2	84	73
2	大阪城 ※2	54	64
3	ユニバーサルスタジオ	42	88
4	黒門市場	33	46
5	日本橋	31	28
6	通天閣（新世界）※1	21	40
7	観覧車（HEP FIVE、天保山）※1	20	48
8	海遊館　※2	16	67
9	梅田スカイビル空中展望台 ※1	15	58
10	四天王寺 ※1	12	42

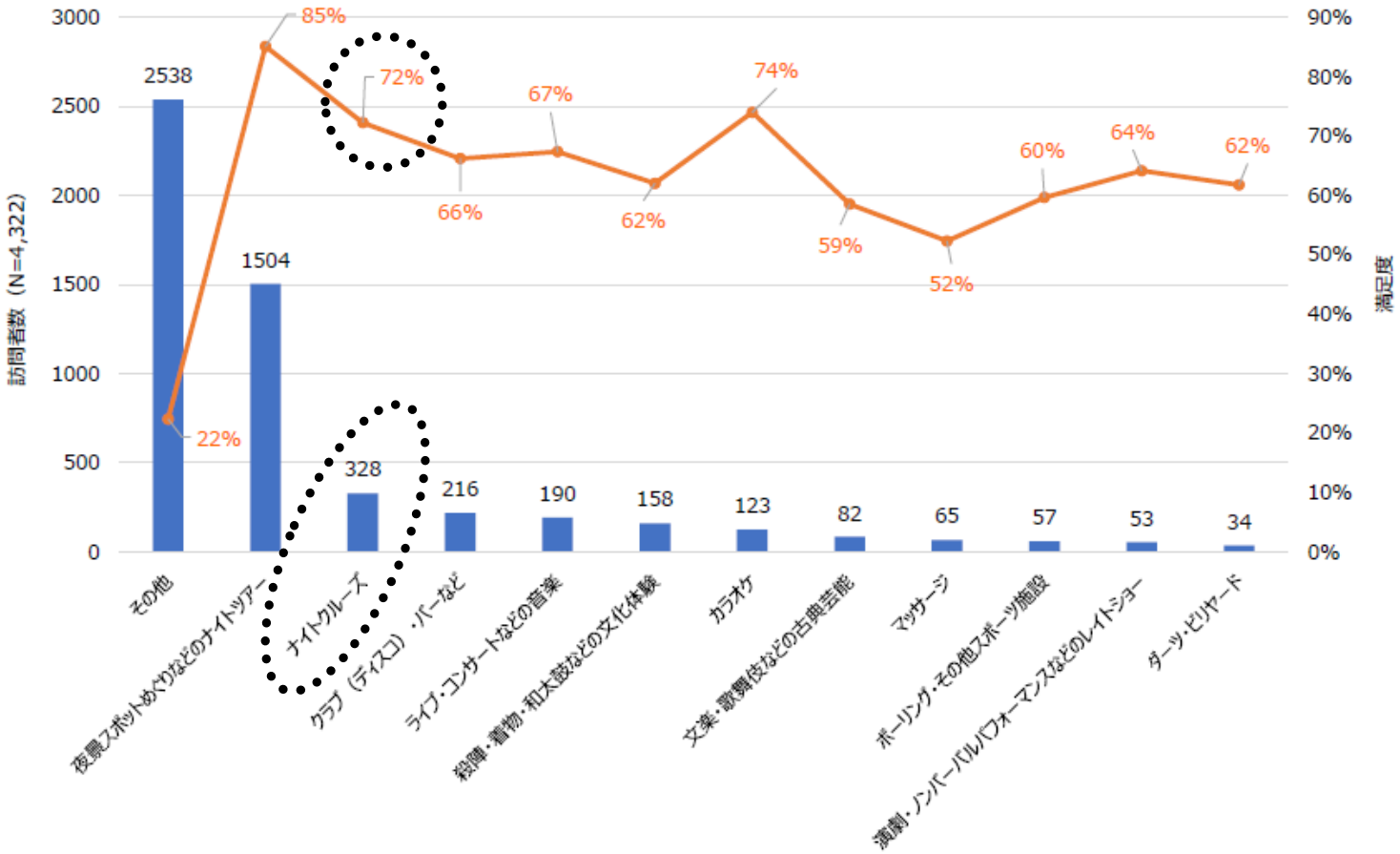
※1 周遊パスの利用可能
※2 周遊パスによる船舶の利用が可能

1． 取り巻く状況（ナイトクルーズ）

- 約8%の来阪インバウンドがナイトクルーズを体験し、お勧めしたいと思った率も72%と高くなっている

夜、大阪で体験したこと

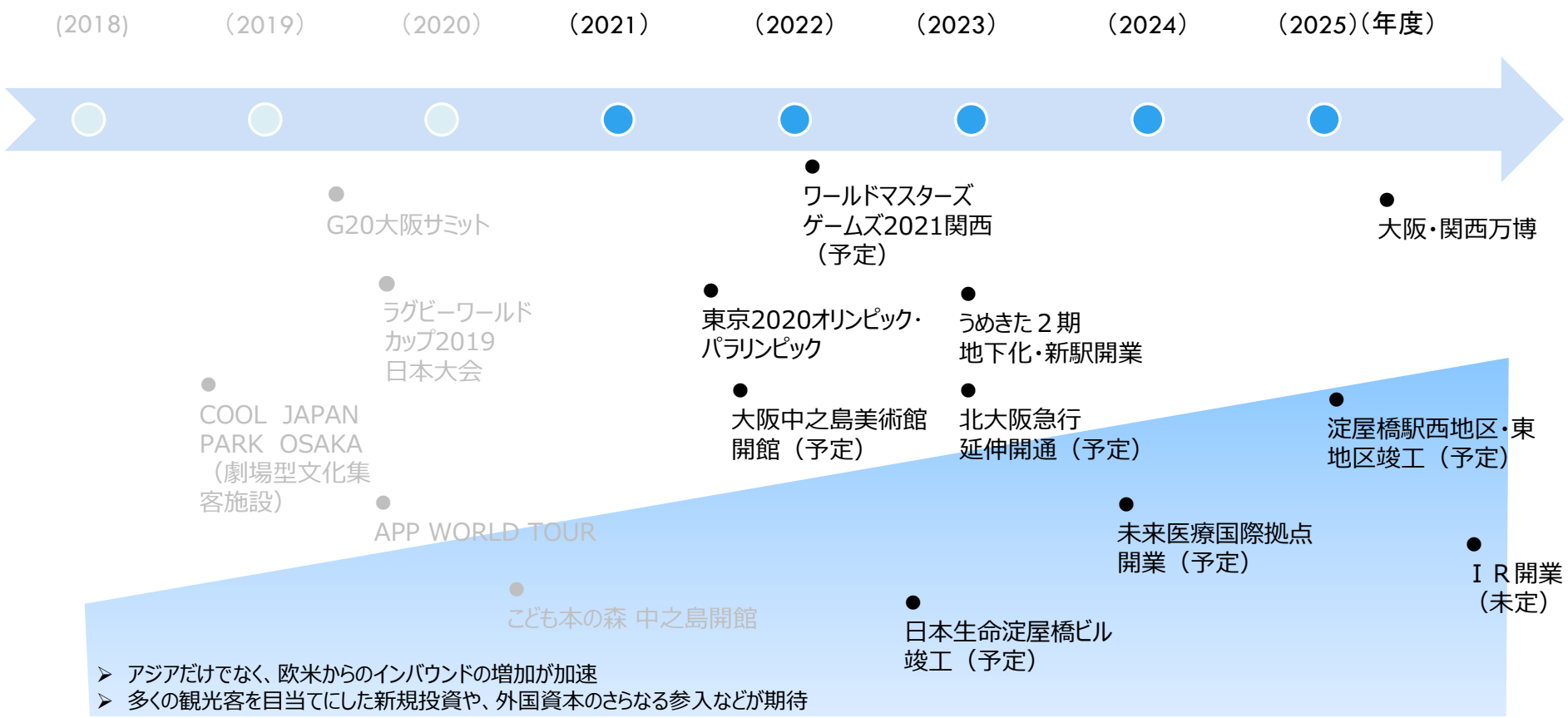
【夜、大阪で体験したこと（棒グラフ）、その結果お勧めしたいと思った率（折れ線グラフ）】



出典：大阪観光局　2019年　関西国際空港　外国人動向調査結果

1．取り巻く状況（今後予定されているビッグイベント及び開発等）

- インバウンドの増加の影響が大きくなるなか、「G20大阪サミット」や「ラグビーワールドカップ日本大会」が2019年に開催され、2021年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2022年には「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が予定されている。さらには、2025年の「大阪・関西万博」と世界的なイベントが目白押しとなっている
- これまで、アジアからの来阪者が2019年には87%（2020.6.1大阪府観光局 来阪観光客数の推移）と多くを占めていたが、これらの世界的なイベントをきっかけに欧米での知名度が高まることも期待されている



1．取り巻く状況（中之島周辺の主な施設整備状況）

＜2025年頃のイメージ＞

▬ ： 船着場

なにわ筋線（仮称）中之島駅
【2031年春　開業予定】

・「うめきた（大阪）地下駅」と「JR難波駅」「新今宮駅」を結び関西国際空港と直結
・中之島駅 ⇄ 関西空港駅　約４０分

堂島浜一丁目地区
【2024年度　開業予定】

事務所、ホテル、船着場等

・国際競争力の強化に資する宿泊機能や観光・文化発信機能等を導入するとともに、堂島公園を中心とした水辺の新たなにぎわい拠点を創出

うめきた2期
【2024年 先行まちびらき】

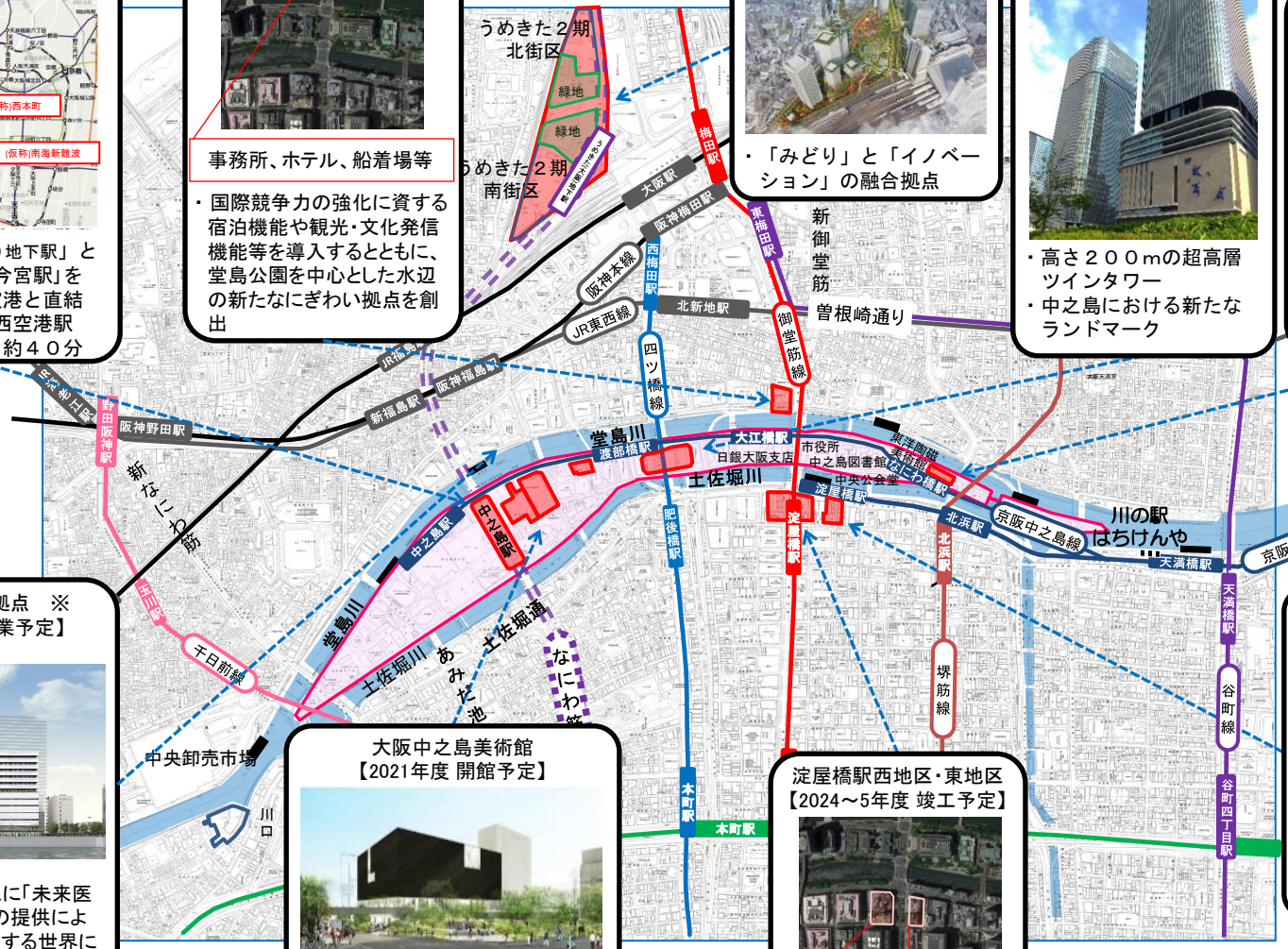
・「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

中之島フェスティバルタワー
【2017.4 フェスティバルシティ開業】

・高さ２００ｍの超高層ツインタワー
・中之島における新たなランドマーク

こども本の森 中之島
【2020年 7月開館】

・子どもたちが安心して本を手に取って読める空間の提供や、芸術文化に触れるイベントを実施



未来医療国際拠点　※
【2024年春　開業予定】

・再生医療をベースに「未来医療」の産業化とその提供による国際貢献を推進する世界に開かれた国際拠点を形成

大阪中之島美術館
【2021年度 開館予定】

・大阪市所蔵第一級コレクションを展示
・既設美術館とは異なる新たな魅力を創造

淀屋橋駅西地区・東地区
【2024～5年度 竣工予定】

西側：高さ135m　東側：高さ150m

・御堂筋のゲートタワー

日本生命 淀屋橋ビル
【2022年10月竣工予定】

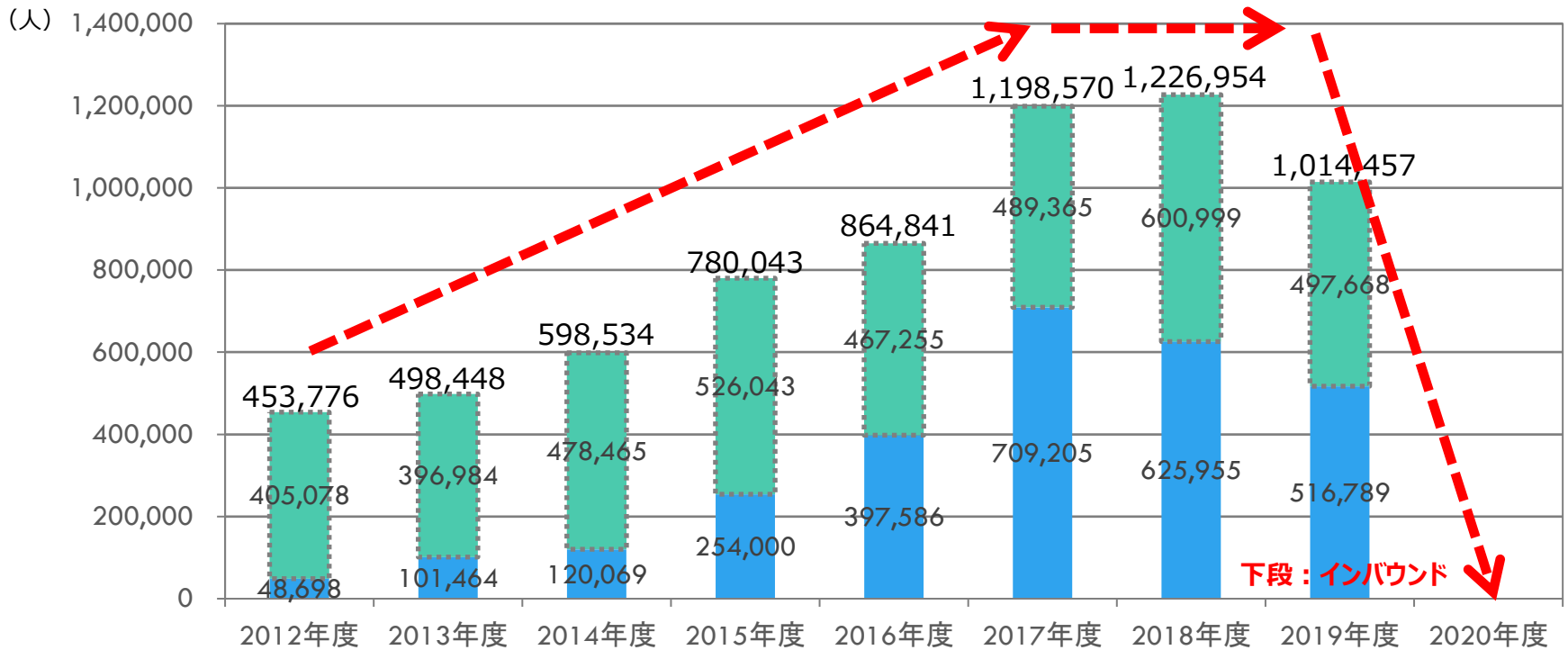
高さ123m　地上25階

※提案時点（2019年1月）のイメージパースであり、今後変更の可能性があります。
※提供：中之島4丁目用地における未来医療国際拠点整備・運営事業開発事業者

2．舟運の現状（舟運利用者数の推移）

- 2018年度までは、主にインバウンドの利用者の増加に伴い、右肩上がりに増加（120万人/年に到達）
- 2019年度は、新型コロナウイルスの感染症拡大や国際情勢の影響により、2012年度以降、初めて前年度を下回った。
- 2020年度も、新型コロナウイルスの影響が継続。一年を通じて最も利用者数が多い桜のシーズン（3月下旬～4月上旬）に観光船各社のほとんどが運休となったため、例年約3万人の乗船者数に対し、今年はわずか600人の乗船者へと激減。

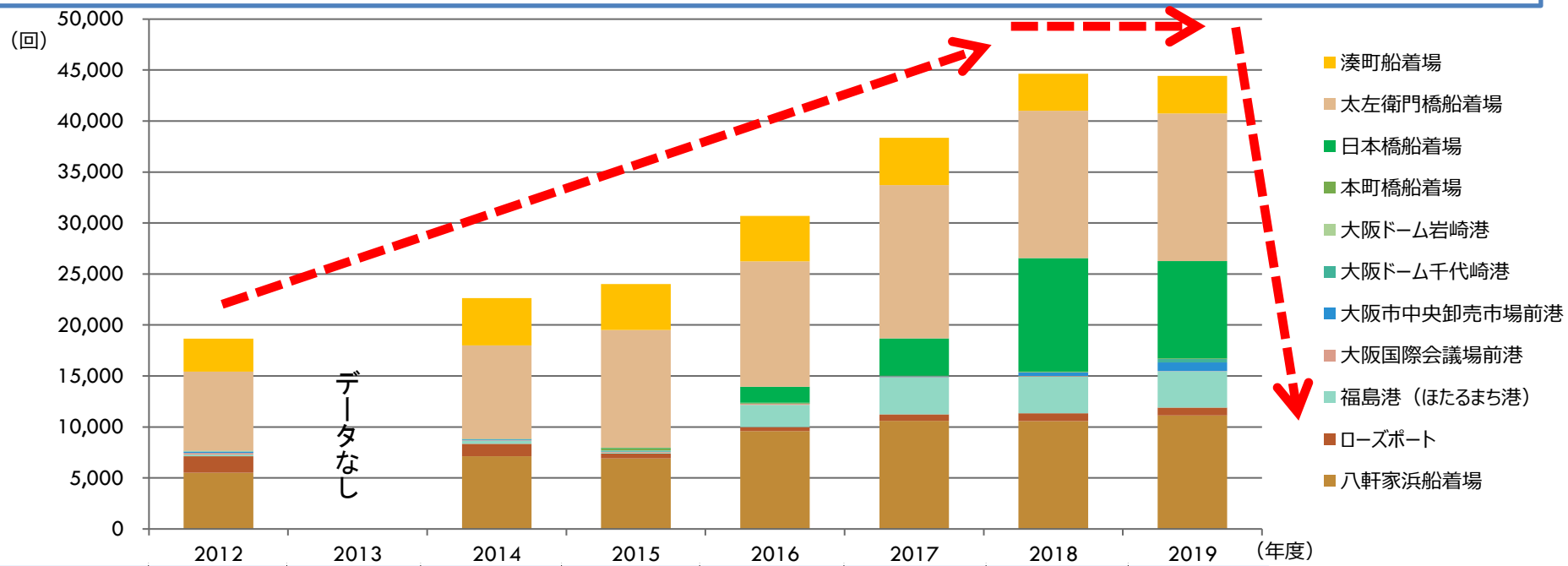
年　度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用者数(人)	453,776	498,448	598,534	780,043	864,841	1,198,570	1,226,954	1,014,457	-
対前年増加率	–	1.10 倍	1.20 倍	1.30 倍	1.11 倍	1.39 倍	1.02 倍	0.83倍	-
うちインバウンド【推計】(人)	48,698	101,464	120,069	254,000	397,586	709,205	625,955	516,789	-
ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄの占める割合	10.7%	20.4%	20.1%	32.6%	46.0%	59.2%	51.0%	50.9%	-



＊水都大阪コンソーシアム調べ

2．舟運の現状（船着場利用実績）

- 2019年度は2012年度に比べ船着場発着回数が約2.4倍に増加
- しかしながら、2020年度（1月~6月）は、各社、新型コロナで運休した影響により、発着回数も激減



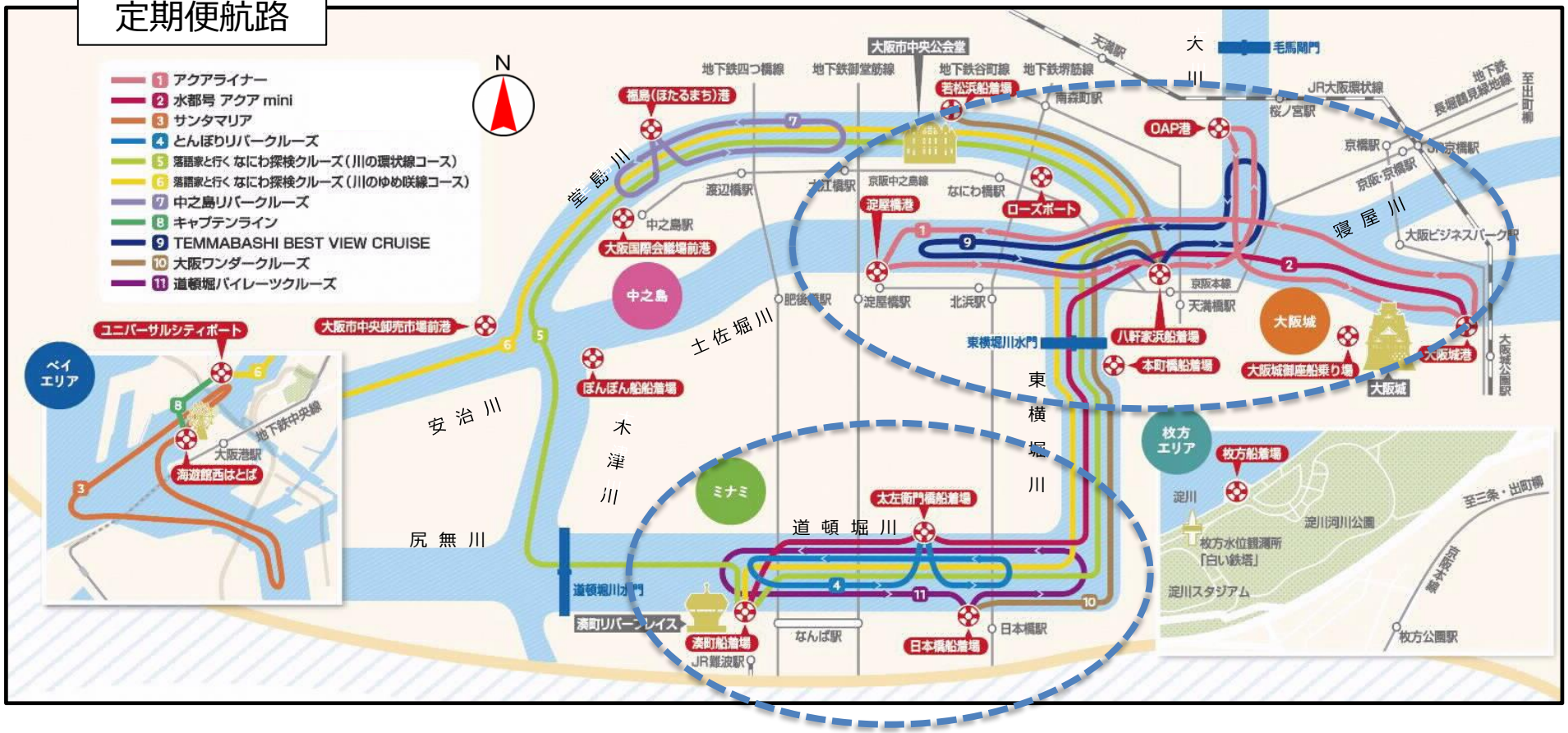
発着回数	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
湊町船着場	3,228		4,616	4,494	4,469	4,616	3,631	3,682
太左衛門橋船着場	7,781		9,190	11,580	12,292	15,046	14,437	14,473
日本橋船着場	10		8	32	1,576	3,649	11,527	9,555
本町橋船着場		データなし		202	76	42	38	29
大阪ドーム岩崎港	39		15	33	7	8	7	5
大阪ドーム千代崎港	26		17	94	16	38	40	348
大阪市中央卸売市場前港	144		86	22	5	36	347	838
大阪国際会議場前港	136		57	72	100	76	74	51
福島港（ほたるまち港）	165		299	98	2,168	3,599	3,623	3,550
ローズポート	1,624		1,198	461	411	624	769	759
八軒家浜船着場	5,511		7,138	6,926	9,584	10,609	10,805	11,132
計	18,664		22,624	24,014	30,704	38,343	45,298	44,422

＊水都大阪コンソーシアム調べ

2．舟運の現状（観光船の航路）

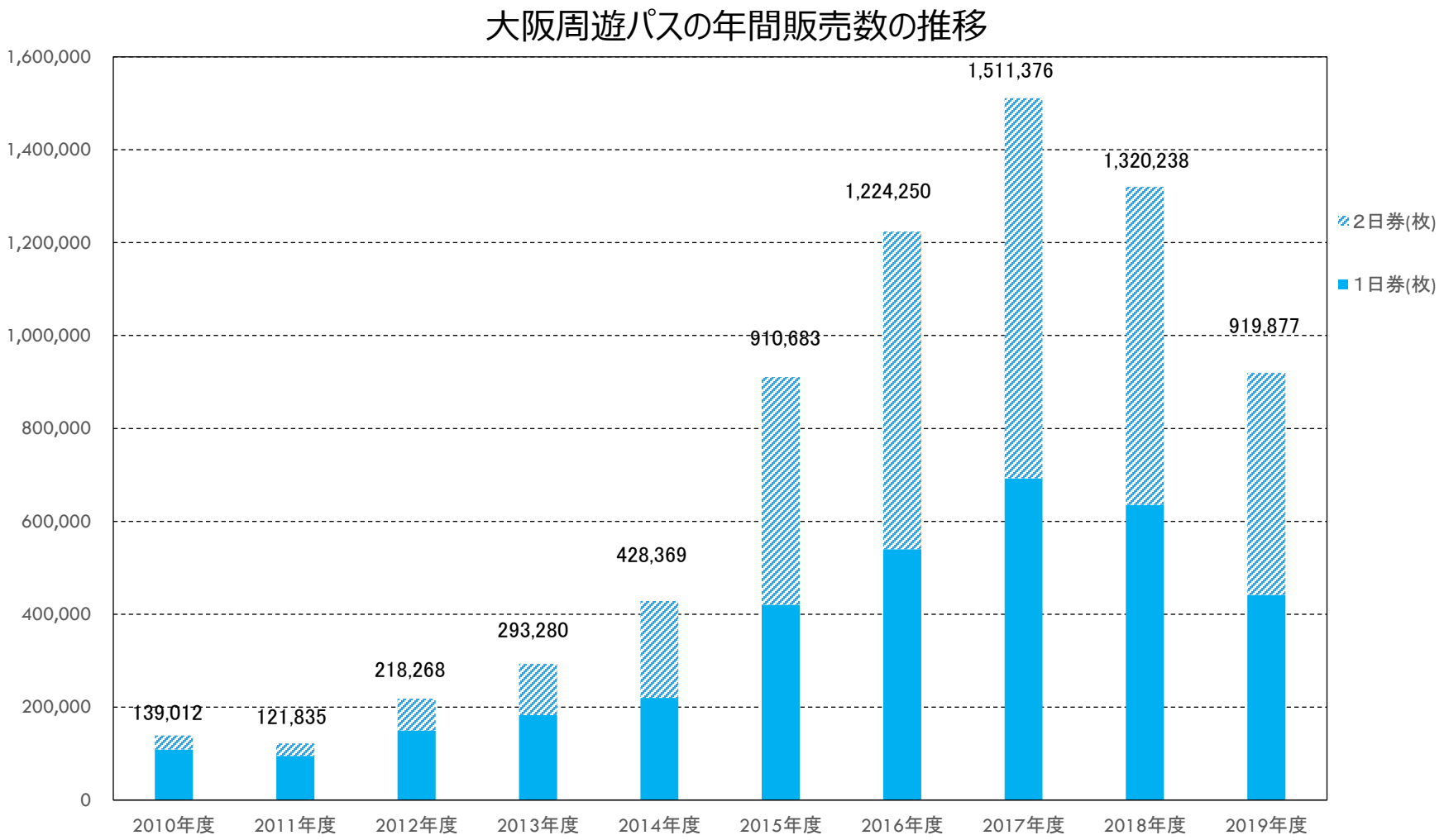
【大阪市内河川の航路の現状】
- 航路は、中之島東部から大川の桜ノ宮、大阪城港と道頓堀川エリアに集中。
- 川幅が狭く、船舶の通航方法や制限事項等を定めた航行ルールがある。
- 桁下高さの低い橋が多く、潮位の高い時があるため、中之島の東西をつなぐ定期運航ができる船が少ない。

定期便航路



2．舟運の現状（周遊パス年間販売数の推移）

- 周遊パスの販売数の増加とともに、舟運利用者も増加している。
- これは、様々な特典の中にクルーズ船の利用があることから、周遊パスを購入して利用する人が多いと考えられる。
- 2017年度をピークに減少に転じており、国際情勢や新型コロナの影響により、2019年はピークに比べ61%と落ち込んでいる。

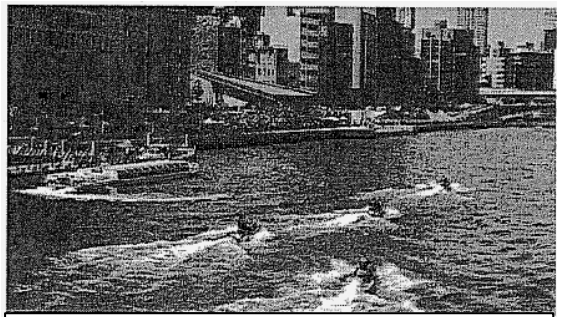


2．舟運の現状（事故やインシデント等の発生状況）

- 事業船（貨物船など）と観光船等が共存している中、水面利用者へのヒアリングなどから、現状でも多くのインシデントが発生していると考えられる。

- 今後、舟運活性化等により船舶が増加することで、事故やインシデントも増加する恐れがある。

- 報告があった主な事故やインシデントは以下のとおり。
  - 船舶同士の接触やニアミス
  - 係留船への接触
  - 高速走行船による接触等の懸念
  - 船着場以外からの乗降
  - 不適切な係留
  - 船上での不安全行動（船舶上での過度の飲酒など）
  - 河川への飛び込み
  - 釣り客とのトラブル



集団で船着場付近を引き波を立てて航行

水上オートバイの引き波により
手漕ぎボートが水没

3．水都大阪の課題

（１）コロナ禍や国際情勢の影響で激減した舟運利用者の増加策（国内向け）

（２）水都大阪の魅力のさらなる創造・発信（大阪・関西万博開催のインパクト活用等）

（３）水辺周辺の恒久的なにぎわいづくりの支援・啓発の継続と拠点間の連携強化

（４）舟運利用者の利便性向上と利用者ニーズに沿ったクルーズ商品の開発・提供の充実等による水の回廊のさらなる活性化

（５）舟運事業者の増加による事故やインシデント等を未然に防ぐための航行安全のルール策定や安全講習会等の実施、および新型コロナ対策

（６）船着場周辺の魅力づくりや新規事業者の参入、東西軸の活性化

（７）民間による新たな大規模開発等との連携

Ⅲ 水都大阪の将来像

1．ビジョン

世界に類をみない第一級の水都の創造とともに、住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に

- 歴史と文化に培われた水都大阪を次世代につなぐ
- 世界の多くの人が水都といえば大阪を思い起こす
  魅力あるにぎわい空間の創出
- 安全・安心で環境と共生する持続可能な水都大阪の確立

２．基本コンセプト

（１）水辺･水上観光メニューの拡大 ←課題(3)(6)

（２）舟運のさらなる活性化を推進
（水の回廊を中心に） ←課題(1)(2)(4)(6)

（３）安全･安心な水都大阪 ←課題(5)

（４）民間ビジネスの創出 ←課題(7)

（５）ブランディングの強化 ←課題(2)

（１）水辺・水上観光メニューの拡大

- 新たな水辺・水上観光メニューの開発
  - 舟運と拠点をつなぐ新たな仕掛け、夜間観光の推進、大阪の歴史・文化との連携　など
    （美術館や近代建築物等と連携し、クルーズの新規造成、ナイトクルーズの促進）
  - 大阪・関西万博と連動した新たな水辺のにぎわい創出
  - スマート水都大阪をめざした水辺へのビジネス誘致（MaaS、空飛ぶタクシーなど）

- アクティビティー・スポーツの推進
  - 水辺での仕掛けづくり、スポーツ世界大会の誘致（SUP、ハイドロフライトなど）

- 拠点の魅力づくりと拠点間の連携強化
  - 民間投資・開発と連携した水辺のまちづくり、にぎわいづくり
    （大阪中之島美術館、こども本の森 中之島など）

サンプルイメージ
夜間観光

サンプルイメージ
歴史（生きた建築）

（２）舟運のさらなる活性化を推進（水の回廊を中心に）

- 水都大阪のシンボルとなる空間の創出
- 船から見える景色を意識した水辺の景観づくりや、観光拠点の創出
  - 船からでないと見ることができない、体験することができないなど、船に乗ることの特別感（非日常体験）を付加
  - ソフト面についても、アトラクション的要素を取り入れるなど話題性のあるものを開発
- 新航路の開発や共同運航により、魅力あるクルーズの造成（大阪・関西万博との連携等）

シンボルモニュメント イメージ

共同運航 イメージ

（３）安全･安心な水都大阪

- 舟運の振興と併せて、航行ルールの確立や普及・啓発、安全対策により、水上の安全・安心を確保
- 新型コロナ対策として舟運利用に関する感染予防のガイドラインに基づき、安心して利用してもらえるよう対策と周知を徹底
- まちの施設と水辺が一体化され、夜も人通りが多く、家族連れでも安心して利用できる環境を整備

まちと水辺の一体化

家族連れでも安心できる利用環境

（４）民間ビジネスの創出

- 公民共通のプラットフォーム機能発揮による水辺の魅力向上や活性化
  - 民間ビジネスの誘引・誘導に向けたニーズ把握、および情報提供
  - 民間参入促進に向けた規制緩和（都市・地域再生等利用区域の積極的な活用等）
  - 地元協力や理解促進のためのニーズ把握や要望の吸い上げ

- 公民連携による重点エリアの活性化

☆ 大阪城エリア
☆ 八軒家浜
☆ 堂島浜１丁目地区
☆ 東横堀川とβ本町橋
☆ 中之島GATEノース＆サウス
☆ タグボート大正　など

タグボート大正

- 将来ニーズを見据えたマッチングの促進（推進母体が中心となって）
  - エリア協議会やまちづくり団体との連携
  - 民間連携の促進（大商・関経連・同友会等との連携強化）
  - 行政間連携の促進（国・府・市、河川管理者・まちづくり部局・にぎわい部局等）

（５）ブランディングの強化

- 歴史・文化に培われた、安全・安心な世界第一級の「水都大阪」の発信
  - 歴史や文化を象徴する風景の訴求
  - 「安全・安心」な水都大阪のイメージを国内外への浸透、国際的な観光プレゼンスを向上
  - 野外の水辺やオープンデッキタイプのクルーズは、「ノー３密」で「安全・安心」をPR

- SNSの発信、各種メディアとの連携による効果的なPR
  - SNSにより効果的に情報発信　～未来の水都大阪は日常の積み重ねから～
  - 各種メディアへの水辺のイベント等の情報提供
  - 世界的イベント（大阪・関西万博、SUP世界大会等）との連携による世界への発信

- 地域住民の「シビックプライド」の醸成や、学生など若年層へのPR
  - 環境との共生と持続可能性をPR
  - マイクロツーリズムの観点からのPR
  - 水辺の魅力の再発見を、学生など若年層へPR
  - 大阪府下の地域の水辺活動と連携

3．全体イメージ図

ビジョン

世界に類をみない第一級の水都の創造とともに、住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に

第1フェーズ【再生】 ➡ 第2フェーズ【成長】 ➡ **第3フェーズ【持続的な成長】**

（＝面的展開）

基本コンセプト
Ⅰ 水辺・水上観光メニューの拡大
Ⅱ 舟運のさらなる活性化を推進（水の回廊を中心に）
Ⅲ 安全・安心な水都大阪
Ⅳ 民間ビジネスの創出
Ⅴ ブランディングの強化

ベイエリアや淀川舟運との連携【広がり】

水の回廊のさらなる活性化【深み・厚み】

人々が集う水辺ライフスタイルの定着【つながり】

ビジョン実現に向けたアクションプラン
（推進方策 × エリアごとの取り組み）

水都大阪
AQUA METROPOLIS OSAKA

以　上